

【注意】発行当時の原稿をそのまま掲載しております。農薬について記載のある場合は、最新の農薬登録内容を確認し、それに基づいて農薬を使用して下さい。また、成果情報によっては、その後変更・廃止されたものがありますのでご注意下さい。

[成果情報名] 「山形糯 128 号」の安定多収生産のための基本指標・生育指標・栽培指標

[要 約] 「山形糯 128 号」において、収量 630kg/10a を確保できる m^2 当たり籾数は 31,000 粒であり、このときの精玄米粒数歩合は 84% である。施肥体系は基肥窒素 7~8kg/10a、追肥窒素 2kg/10a（出穂 25 日前）である。

[部 署] 山形県農業総合研究センター水田農業試験場・水稻部

[連絡先] TEL 0235-64-2100

[成果区分] 普

[キーワード] 水稻、糯、山形糯 128 号、収量、生育、施肥窒素量

[背景・ねらい]

「山形糯 128 号」における良質糯米の安定多収生産を図るための栽培法を確立する。

[成果の内容・特徴]

1 「山形糯 128 号」が「ヒメノモチ」の基準収量(520kg/10a)の約 2 割増の収量(約 630kg/10a)を確保するための基本指標、生育指標および栽培指標は以下のとおりである。

(1) 基本指標

収量 水準 (kg/10a)	収量構成要素				
	籾数		玄米	精玄米	穂数
	1穂 (粒)	m^2 あたり (千粒)	千粒重 (g)	粒数歩合 (%)	
630	66~72	31	24.3	84	430~470

注) 千粒重はH23~R1 場内生産力検定試験(標肥)の平均値

(2) 生育指標

	6月10日	6月20日	6月30日	7月10日	7月20日	穂揃期	出穂期	成熟期
草丈 (cm)	31	37	45	64	77		7月30日	稈長 76
茎数 (本/ m^2)	280	430	510	520	510	450		穂数 450
葉色 (SPAD)	36	38	40	40	38	37		
葉数 (枚)	6.3	7.6	8.9	10.2	11.1	11.7		止葉葉数 11.7

(3) 栽培指標

- ・栽植密度 18~22 株/ m^2 1 株当たり 4~5 本植え
- ・本田施肥体系

施肥量	窒素 (kg/10a)	リン酸 (kg/10a)	カリ (kg/10a)
基肥	7~8	7~8	7~8
幼穂形成期追肥 (出穂25日前)	2	-	2
合計	9~10	7~8	9~10

上記の基本指標、生育指標、栽培指標等を基に「山形糯 128 号」の栽培暦を作成した(データ省略)。

[成果の活用面・留意点]

- 1 本成果のデータは選別網目 1.9mm を用いた値である。
- 2 生育指標は、平成 29 年~令和元年の水田農業試験場場内試験及び現地試験の籾数 30,000~32,000 粒/ m^2 程度の生育相より算出した。
- 3 極端な疎植栽培は行わず、地域の気象や土壌などを考慮して適正な栽植密度となるように努める。
- 4 現地試験は平成 29 年~令和元年に行い、累計 13 か所(県内)、計 16 サンプルのデータを用いた。

5 関連する既往の成果：新しい技術の試験研究成果

令和元年度「加工適性が高い「山形糯 128 号」を生産するための登熟気温と移植時期」

令和元年度「品質の高い「山形糯 128 号」を生産するための刈取適期」

[具体的なデータ]

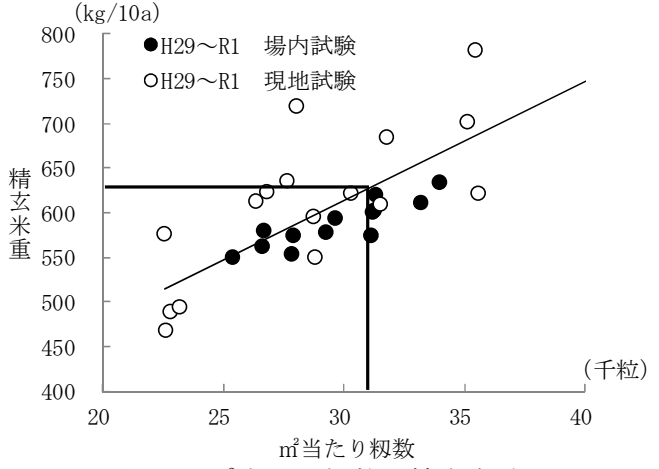


図1 m²当り粒数と精玄米重

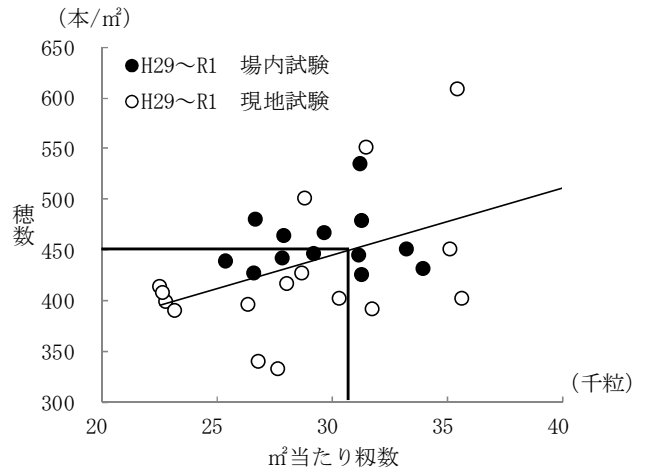


図2 m²当り粒数と穂数

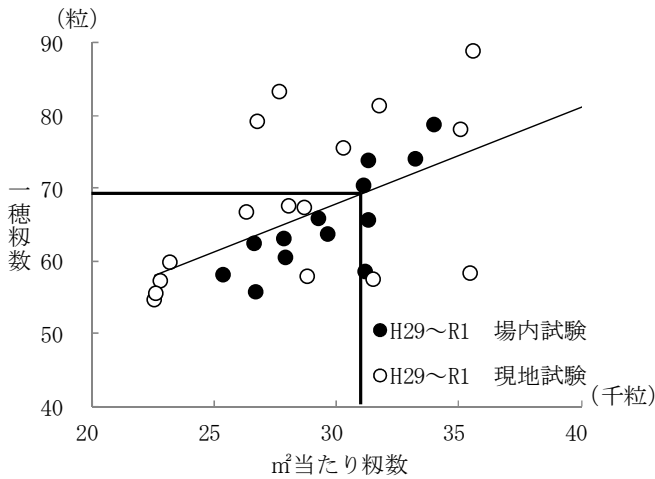


図3 m²当り粒数と一穂粒数

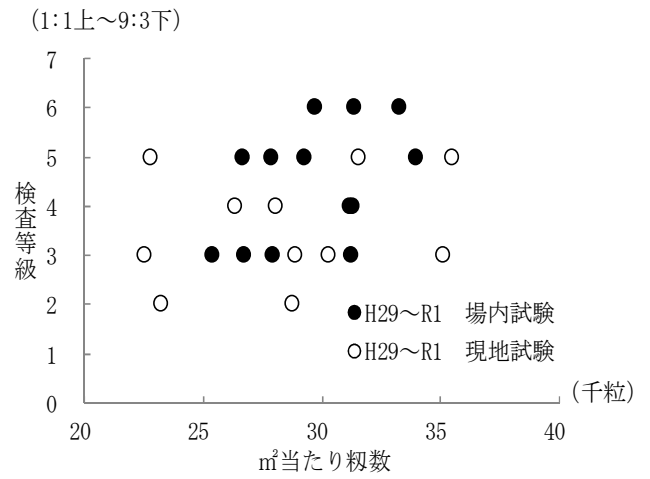


図4 m²当り粒数と検査等級

注)一部の現地試験サンプルについては、調査未実施

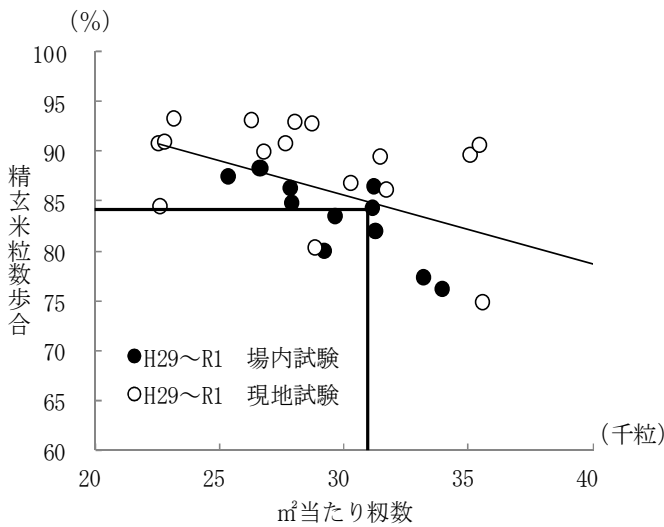


図5 m²当り粒数と精玄米粒数歩合

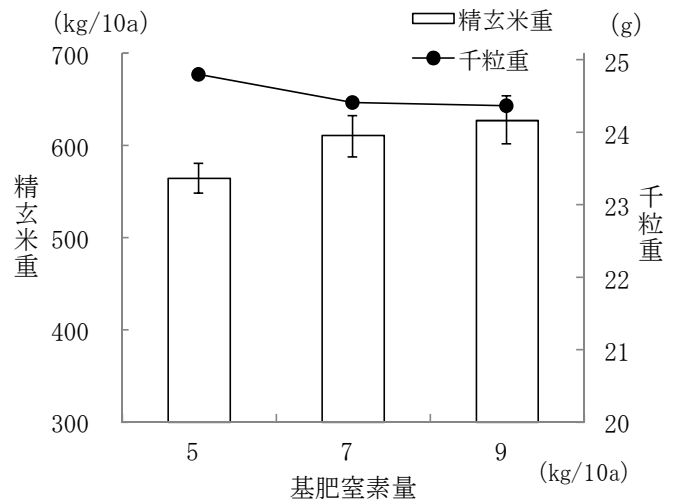


図6 基肥窒素量と収量の関係

(H29~R1 施肥試験：追肥出穂 25 日前, 2kgN/10a 区の平均値、バーは標準偏差)

[その他]

研究課題名：「山形糯 128 号」の安定多収栽培法の確立

予算区分：県単 研究期間：令和元年度（平成 29 年度～令和元年度）

研究担当者：石塚和、安達成美、横山克至、中場理恵子、渡部貴美子 発表論文等：なし